



特定非営利活動法人日本防災士会 奈良県支部 広報

No.11/2014



日本防災士会奈良県支部 第7回総会出席者

第7回奈良県支部総会を開催

平成26年5月18日(日)王寺町やわらぎ会館において日本防災士会奈良県支部第7回総会を開催し、奈良県安全・安心まちづくり推進課山崎友宏課長を始め、奈良市長代理・奈良市消防局 酒井孝師消防局長、奈良地方気象台 小野善史防災気象官、奈良県安全・安心まちづくり推進課 山田享子主幹、日本防災士会 橋本茂常任理事、日本防災士会大阪府支部木村郁夫事務局長のご臨席を賜りました。

結成当初からご尽力いただいた木本支部長が、植村事務局長にバトンを渡され新体制がスタートしました。

会員数が280名を超えNPO化、会員全体のスキルアップ、ブロック内の相互親睦、JR西日本助成金の活用など、今年度は忙しく、やりがいのある年になることを確認しました。

■支部長挨拶

このたびの総会で、新しく支部長に選出されました植村信吉です。

多大な業績を残された前支部長の後を受けて、鈍才無学な者に支部長の大任がつとまるかどうか、大変心もとない次第であります。一生懸命つとめるつもりでありますので、皆さま方の力強いご支援を切にお願いする次第であります。

防災士会奈良県支部は、地域の防災力の向上と防災協働社会の実現を目指すことを理念とし、会員相互の交流と親睦を図り、一人ひとりのスキルアップを目指し活動を進めていくことが最大の目的と考えております。

本来、地域の防災リーダーとして自治体や関係機関と連携を取りながら進めていくことが求められているとはいえ、県内各地域の状況や防災意識の温度差など様々な課題が山積みであります。

最近、南海トラフ地震を始めとした防災情報も相まって、「防災に取り組みたい。

研修をしたいのだが、誰に相談すれば？」等の声をよく耳にするようになりました。防災士会への期待は高まっていると考えるべきでしょう。ただ、どこの誰が防災士かわからないというのが率直なところでしょうか。

まずは顔の見える支部活動を進めることが大切と考え、皆さんと積極的に取り組んでいきたいと思います。

何卒よろしくお願ひいたします。
<日本防災士会奈良県支部
支部長 植村信吉>



木本前支部長 植村新支部長

平成26年度役員

支部長

植村信吉(三宅町)

副支部長

木村尚史(御所市:JP)

奥田英人(橿原市)

井上 清(奈良市)

事務局

局長 南上敏明(天理市)

次長 村山 央(広陵町)

次長 末田政一(奈良市)

会計

古瀬博之(奈良市:JP)

幹事

前川輝男(奈良市)

広報部長

丹羽松一(奈良市)

平井紳二(生駒市)

松尾 修(大和郡山市)

柏田勝幸(田原本町)

県アドバイザー講師団長

山口正春(広陵町)

教育・研修部長

佐古金二郎(十津川村)

勝川喜仙(橿原市)

高岡宏芳(河合町)

大北容子(橿原市)

伊藤東洋雄(王寺町)

会計監査

大久保喜治(奈良市)

窪井紀子(平群町)

顧問

木本喜信(奈良市:前支部長)

中田勇四郎(奈良市:前副支部長)

■災害支援活動

被災地復興支援活動中間報告

～気仙沼だより～

昨年3月から、宮城県気仙沼において災害復興支援として現地で頑張る伊藤東洋雄さんから中間報告が届きました。

気仙沼市におけるまちづくりの考え方

東日本大震災で壊滅的な打撃を受けた宮城県気仙沼市の復興支援のため当地に来てはや1年が経過しました。本稿では、気仙沼市におけるまちづくりの考え方について報告します。



【地震・津波発生からまちづくり復興まで】

- ①地震・津波発生(平成23年3月11日14時46分頃)
- ②被災者(家屋倒壊など)は学校の体育館などの避難所(105カ所)へ避難
- ③仮設住宅を建設し、避難所から仮設住宅へ移転(仮設住宅は学校の運動場などに建設)
- ④恒久住宅を建設し、仮設住宅から移転(主として次の3つのパターンがある)
 - －1 安全な場所に自宅を購入し各自で移転
 - －2 災害公営住宅に移転(自力での住宅再建が困難な市民のための公営住宅)
 - －3 防災集団移転事業(津波被害の恐れがない地区への集団移転)で造成された宅地を購入し各自が建築後移転

【まちづくりの考え方 災害危険区域の指定と土地利用計画】

《総合的な津波防災対策》

■明治三陸・昭和三陸地震津波などの数十年から百数十年に一度発生する津波(L1津波)に対しては、海岸堤防により、確実に津波から街を防御する。

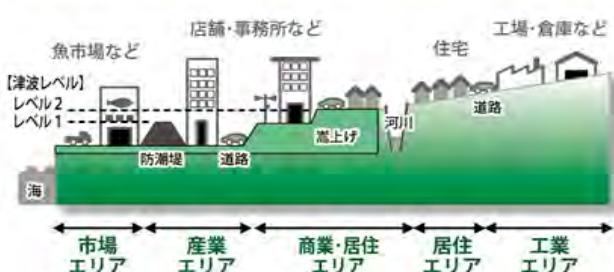
■1000年に一度といわれる今回の津波(L2津波)が起きた場合に浸水が想定される地域には、居住しない。

《災害危険区域の指定》

L1対応の防潮堤整備等を実施しても、東日本大震災と同様の津波で浸水被害が発生する可能性が高い区域を基本として指定している。災害危険区域に指定(平成23年7月)された地区は居住の用には使えなく、水産加工施設など商業・工業などの非居住区域となる。

今後の防災への取り組み

・ 土地利用の方向性 (復興後の市街地のイメージ)



【復興の現状】

- ①災害公営住宅 19地区、1,998戸のうち完了0戸
- ②防災集団移転地 38地区・970区画のうち、今年3月に初めて6区画が完成した。
- ③防潮堤 87カ所のうち完了0カ所
- ④震災廃棄物(瓦礫)処理 完了

【復興への課題】

- ⑤これまで経験したことがない大規模災害に直面して、復興への強いリーダーシップが求められる。
- ⑥復興計画に対する住民の合意がまとまりにくい。
(防潮堤の高さの決定など)
- ⑦復興事業に時間がかかる。
 - ・防災集団移転事業などの実施に際し、相続手続きや抵当権解除など地権者の同意が必要。
 - ・埋蔵文化財調査や開発行為の手続きなど法律に縛られる。
- ⑧広範囲に、かつ時期を同じくして復興に取り組むため、行政の職員、建設会社、建設資材が逼迫し、事業がはかどらない。
- ⑨復興事業に時間がかかるため、それぞれの事情を抱えた住民には待ちきれなく、他の自治体に転居し、人口が減少し復興計画の見直しが必要になる場合がある。



＜伊藤東洋雄 防災士＞

■支部活動

ブロック会議の開催

当初、組織部会では奈良県内を気象庁の警報・注意報発令区分を基にブロック割を行っておりましたが、支部会員の増加や地域的な人数バランス及び、気象庁の警報・注意報発令区分が各市町村単位に変更されたことを受け、平成26年度からは、奈良県の衆議院選挙区割りを参考(旧都祁村は奈良市)に4ブロックとし、第2回のブロック会議とHUG訓練(避難所開設運営)が行われました。

たくさんの参加者でコミュニケーションも図れました。

- ・6月28日(土) 南和(4区) 檜原市かしはら安心パーク
- ・6月29日(日) 北和(2区) 大和郡山市市民交流会館
- ・7月 6日(日) 中和(3区) 三宅町あざさ苑
- ・7月 8日(火) 奈良市(1区) サンアクティブ奈良



＜末田政一 防災士＞

■講師派遣

平群町で防災講習

3月20日(木)13時30分から約2時間、平群町福祉センタープリズム平群において、防災研修会が行われ、奈良県安全・安心まちづくり推進課の依頼を受け、奈良県支部から、植村、柏田、松尾、高木忠雄、高木裕也、村山防災士が参加しました。

平群町のボランティア団体、自主防災会の人たち約70名が参加しました。「いつ起こるか判らない災害に備えて」と題して、植村防災士が講演したのち、2班に分かれて、三角巾の使用方法と簡易担架による搬送を講習しました。

皆さん大変熱心に取り組まれ、呑み込みの速さに感心させられました。

＜植村信吉 防災士＞



十津川高校で防災訓練

5月17日(土)十津川村の十津川高校において、十津川村折立地区・込之上地区・平谷地区自主防災会、十津川高校、十津川村、奈良県主催の防災訓練が行われ、高校生25人を含む約80人の地区の方が参加し、支部から、植村、大久保、奥田、柏田、佐古、高木、松尾、村山防災士が参加しました。

午前8時25分、南海トラフが動き
十津川村は震度6強、強い余震が
続いているとの想定で、一時避難
場所への避難訓練が行われました。
植村防災士による防災講演の後、

支部の担当は十津川高校の寮生に対して、簡易担架の製作と搬送方法の講習を行いました。災害を体験されている地域なので、訓練に対する熱心さに感心する一日になりました。

＜村山 央 防災士＞

LPガス発電機訓練
簡易担架の製作と搬送方法の講習
起震車体験
家具の固定方法のビデオ研修
だんだんベッドの組立(段ボールのベッド)と展示
非常持ち出し品の展示
防災物品の展示
非常食づくり

奈良市南部公民館で防災講習

6月29日(日)に奈良市南部公民館において「GET!生活の知恵・南海トラフ地震に備える」をテーマに防災講習が行われました。

奈良県支部から、古瀬、末田、大久保、堀内防災士が参加し、講演と実技講習を行いました。

地震が起きた時に奈良市はどうなるか、どうすればいいか、何をしておくべきかの講習とシェイクアウト^注の練習。実技では身近な物(レジ袋・傘・電話帳・ラップ等)を利用した応急手当や止血方法を行いました。

＜末田政一 防災士＞



注 「シェイクアウトとは？」
地震が起きた際、安全確保のための行動を身につける訓練です。
Drop(姿勢を低く)/Cover(頭を守り)/HoldOn(動かない)

■地域防災訓練

河合町高塚台防災訓練

6月14日河合町高塚台第2公園において、高塚台第6回防災訓練が行われました。今回は西山台との合同訓練で、高岡防災士が中心に計画されました。

車いすを含め、94名の避難訓練の後、岡井町長のあいさつに続いて、消火訓練、救急訓練、ジャッキによる救出訓練、炊き出し訓練が行われました。

訓練後は第三小学校のブラスバンド部による演奏とダンスの披露がありました。

〈村山 央 防災士〉



高塚台第2公園で消火訓練

■平成 26 年度事業

「JR 西日本あんしん社会財団」公募助成事業

奈良県支部は、平成 26 年度JR西日本あんしん社会財団の助成事業に応募し、以下の要件が認められて助成を受けることになりました。

この助成事業は、平成 17 年 4月 25 日に発生した福知山線列車事故を契機に、JR西日本の全額出資により、事故や災害により被害にあわれた方々への心身ケアに関する支援を始め、「安全で安心できる社会」の実現に寄与する様々な活動に対して行われているものです。 〈山口正春 防災士〉



JR 西日本より贈呈書



公募助成贈呈式 平成 26 年 3 月 24 日(月)
前列左端 木本喜信支部長

個人情報の取り扱いについて

これまで支部では、個人情報の取り扱いについては、本会で責任もって管理し、本会の目的以外での使用はしませんとして取り扱ってきました。

しかし、最近、支部事務局へ「自分の地区に防災士がいれば教えてほしい」等の問い合わせや、行政関係者から「地域防災活動の中心になってほしいので防災士へ連絡したいので」等が増えてきました。

そこで、支部ホームページの「会員専用ページ」において会員名簿を掲載することとします。但し、掲載は氏名と市町村名のみの公開となります。 例:防災太郎(奈良市)

なお、防災士相互のネットワークや地域の防災活動、同じ校区内で連絡を取り合いたい等の場合は、別途事務局へお問い合わせ下さい。

また、防災士会の活動であっても非公開を希望される防災士の方は連絡をお願いします。

日本防災士会奈良県支部 支部長 植村信吉

1 助成内容

- 1) 助成種別 活動助成
- 2) 助成テーマ 地域防災力を高める避難所開設・運営訓練の支援活動
- 3) 助成金 金 70 万円

2 助成活動計画

奈良県下 39 市町村にある約 200 小学校区で自主防災会(自主防災組織 1429)が主体となって実施する災害時における避難所開設・運営訓練を支援する。

3 助成金活用の内容

1) 心臓マッサージ訓練(あっぱくん)の購入 540,000 円

- ① ボジョレーCPRトレーニング BOX「あっぱくん」
各ブロックに2セット(40 個と指導DVD2枚配付)
- ② JAMY-P AED トレーナーセット
(購入済、奈良市ブロックで保管)

2) 避難所運営訓練「HUG」の購入(8月末納品) 140,000 円 各ブロックに 4 セット

(16 組配付、100 人規模の図上訓練が可能)

3) 応急手当指導用パネルの作成 20,000 円

4 主な活動内容(実施分含む)

1) 防災講演「避難所開設・運営訓練のポイント」

5 月 18 日(日)王寺町やわらぎ会館

講師:日本防災士会本部常任理事 橋本 茂氏

2) ブロック研修会・避難所運営訓練「HUG」

(3ページの「ブロック会議の開催」を参照)

3) 普通救命講習会(7月 12 日(日)奈良市六条地区)

4) 各ブロック・市町村ブロックで災害図上訓練

避難所運営訓練「HUG」と避難所開設・運営訓練の活動支援

■発行日 2014 年 8 月 15 日

■発行者 日本防災士会奈良県支部 支部長 植村信吉
〒636-0215 奈良県磯城郡三宅町上但馬 1-5

■事務局 日本防災士会奈良県支部 事務局長 南上勝栄
メール mail@bousainara.com
Tel. 090-4902-0901 (変更になりました。)

■ホームページ <http://bousainara.com>